

**平成30年度 外国人留学生 小論文**  
**出題の意図と解答の傾向**

**問題 1**

**【出題の意図】**

『武器としての人口減社会 国際比較統計でわかる日本の強さ』（村上由美子 2016）からの出題である。本学に入学する前に、日本語能力を高めるだけでなく、経済学を学ぶ際に必要となる社会を分析する力もつけておいてほしいと考え、この文章を入学試験の問題として採用するに至った。

設問にあたっては、これから本学の経済学部で学ぶにあたって必要とされる日本語能力、文章読解能力、文章表現能力、洞察力、分析力、論理的思考力を測ることに重点を置いた。

設問1では、経済学部で学ぼうとする受験者には読めることが期待される漢字を取り上げた。設問2では、カタカナ語を取り上げ、その意味を理解し、日本語で説明する力があるかを測った。設問3では、データを正しく読み取り、表現する力を測った。設問4、設問5では、読解力と理解した内容を再構成する力を測った。設問6では、本文を理解した上で、論理的に文章が書けるか、本学の経済学部で学ぶ際に必要となる洞察力、分析力が備わっているかを問うこととした。

**【解答の傾向】**

それぞれの問題において、うまく解答できた受験者とそうでない受験者の差が大きかった。文語体で書くことが望まれるが、口語体の解答も見られた。漢字の間違ひも見受けられ、漢字圏出身の受験者では「簡体字」を使っているもの、非漢字圏出身の受験者では漢字で書くべきところを平仮名で書いているものが多かった。助詞の間違ひも見られた。ほとんどの受験者が字数制限のある設問では適切な字数で答え、冒頭の一マス空けや句読点の打ち方等、解答用紙の罫目を正しく使うことができていた。

**<設問 1 >**

①の正解率が低かった。

**<設問 2 >**

本文には、「クリエイティブ」、「イノベーション」、「スタートアップ」、「スキル」、「ユニーク」、「ブレイクスルー」等のカタカナ語が多く含まれており、設問2だけではなく、他の問題に答える際にも、こうしたカタカナ語の意味を正確に理解することが必要である。カタカナ語を得意とする受験者と苦手とする受験者の差が顕著に表れた。また、カタカナ語は理解できていると見受けられるが、それを適切な日本語で説明できていない解答も少なからず見られた。

**<設問 3 >**

日本のデータだけでなく、他国のデータも視野に入れた分析や記述が必要であったが、日本のデータのみの特化した記述が多く見られた。表現としては、単に具体的な%のみを書き記したものが見られた一方で、グラフを説明する表現を巧みに用いた解答も見られた。

#### <設問 4>

設問 4 では、「生産性が低下している原因が、イノベーションが欠如していることではなく、その拡散メカニズムが機能していないことだとすると、起業しやすい環境を整えることで、生産性を大きく向上させることが可能になるはずです。」が解答のポイントであるが、その点を読み落として答えているものがいくつか見られた。また、本文から抜き出しただけのもの、キーワードはつかめているものの自分の言葉で再構築できていないもの、キーワードが欠けてしまっているものもいくつか見られた。

#### <設問 5>

「起業教育は、単なるキャリア教育ではありません。最近の EU の研究によると、起業教育は想像力、起業するノウハウ、責任感、リスクを恐れない精神、問題解決能力、チームワークといった様々な側面に焦点を当てています。」の部分を中心にまとめることが期待される。ほとんどの受験者がこの部分に着目できていたが、「どのような効果が期待できますか」という問いに対し、「～効果が期待できる」というような答え方になっておらず、本文を抜き出したままの解答も多く見られた。一部、自分の言葉で非常にうまくまとめ直した解答も見られた。

#### <設問 6>

起業教育について、本文を踏まえ、日本と出身国の実態を比較した上で、自身のアイデアを出すように求めた問題であった。本文で述べられている日本の起業教育の現状を簡潔にまとめ、その上で出身国の起業教育の現状を述べ、更にどのような起業教育が必要か自身の意見を述べることを期待した。

まず、本文を踏まえる、日本の現状をまとめるという点で弱い解答があった。日本と出身国との比較に関しては、ほとんどの受験者が書けていたが、自国の事情に関して、精通し、しっかり分析できている受験者とそうでない受験者との大きな差が見られた。また、起業教育に関してオリジナリティーのあるアイデアが出せた受験者と出せなかった受験者との差も大きかった。内容に加え、文章の構成、論の展開にも着目して採点を行った。

社会に関する知識、洞察力、分析力が求められる問題であり、日本語の学習を単なる言語の学習と捉えてやっていただけではなかなか解けない問題である。日々の生活の中で、様々なことに興味を持ち、自ら考える力を養うことが望まれる。